

第1回富山県婦人海外派遣団に参加して (西ドイツでの老人ホームについて)

魚津市農協婦人部長 伊東夏子

広大な敷地に4階～7階建の建物が点存しており、庭には白樺の木、島山の木(赤い実がなっている)が紅葉し大変美しい風景でした。

フランクフルト市には、保護を要する老人と身体障害者を収容する施設が7つもあり、60年の長い歴史を持っています。それらの施設は3,200人を収容しています。施設には、いろいろな分野があり、このソーシャル、セントラムは、国・州・町の補助で1974年に建設され、75年から活動を開始し、市内のモデル老人ホームです。又、町の行政の中に組み込まれ、老人障害福祉協会が運営しています。

私達の訪問した施設には、177人収容されており、トイレ、風呂などは老人向に低めに作られ、緊急の場合の為に引き「ベル」がいたる所についています。部屋の大きさは、43平方メートル、77平方メートル、63平方メートル(2人部屋)といろいろあります。

入居に際しては、各自が自立の精神を持って生活の出来るよう世帯道具を持っての入居で勿論有料です。普通のアパートと違う点は、世話人と医者が常時勤務しており、病気や緊急の場合ベルを引くと、施設の心臓部のランプ室にランプがつきすぐきてもらえ、病気になっても病院に運ばれず、自分の部屋で面倒を見てもらえることです。又、ここに住む人は、一切の事を自分で契約することが建前になっています。料理、掃除、洗濯は自分でする事が原則ですが、どうしても出来ない時は、外部に依頼してもよい事になっています。しかし老化が激しく、健康状態が悪くなれば、

全部面倒を見てくれる別の老人病院に入らなくてはなりません。

① 身体障害者の部屋(アパート)

650人収容出来る身体障害者の部屋があります。現在は480人入居しています。一部屋平均2人で家族と一緒にいる人もいます。又、身障者の子供がまだ小さいと家族全部で生活出来る棟もあります。そこには10家族しか入れません。身障者は椅子に乗る生活が多いので、椅子の高さに合わせてベル、スイッチ等が設けてあります。誰の助けも受けず自立出来る様になっています。

② リハビリテーション

(年令に制限なし。金曜午前中)

障害者が復帰する為の施設も完備しています。入浴による治療、機械を使用する治療、言語障害治療のための会話教室(英・フランス語)、手芸、陶芸、ダンス、洋裁コース等の趣味の教室が開かれております。又、公民講座が開催され一般市民にも開放されています。そして若者との交流を図り、社会福祉と社会教育が同時になされています。老人、身障者だけを隔離しないで常に健康者と一緒に生きている豊かな社会が基本に流れ、赤ん坊から老人迄が利用しています。それから、交通事故で急激な衝撃を受けた人達も(30才～80才)自動車で送迎されて40人位治療を受けています。

治療者の75%～80%は脳卒中の人で、費用は食事代、治療代合わせて50DM(ドイツマルク)です。通園者の為の喫茶室、ベッド室、食堂があります。

治療者を次の2つのグループに分けていま

す。①新しく入った人。②長い治療で癒りかかっている人。此の②の人達は社会復帰する為、自分で買い物をして家に帰り混乱する事なく生活出来る様努力しています。

市内に住んでいる老人でも体の都合が悪く、

料理、掃除、買物、洗濯等出来ない人は、この施設に申込みと、それぞれ係の人が派遣されます。つまりホームヘルパーです。

以上聞いた事、見た事をご報告いたします。